



# ももりんMIMだより

小諸養護学校  
センター的機能係  
平成30年12月1日  
No. 9

MIM-PM も多い学校では7回、少ない学校では3回ほど実施してきました。全部で11回分ありますので、有効に活用したいですね。さて、MIM-PMのMIMは多層指導モデルですが、PMとは何でしょう。PはProgress（伸び）、MはMonitoring（見る）だそうです。一人ひとりの伸びを把握して、認め、自信につなげていきたいですね。月々のMIM-PMの実施は、時間の確保など大変な面もあるかと思えます。定期的な実施だからこそ見えるものがあります。あと4カ月よろしくお願ひします。

## ルールがはっきりすることで安心して学べる

2学期複数の学校で、MIMの方法で特殊音節指導を一緒に行わせていただきました。どのクラスでも、一学期に教科書の方法やMIMの方法で学習をしています。しかし、実際に授業をすると、授業の前半のルールの確認の場面では分かっているように感じて、後半のプリントに書いて確認する場面ではプリントに書いてある字は、「あれ？分かっていなかった？」というお子さんが思った以上にいます。特に長音では、2学期にカタカナを学習したこともあり、ひらがなでも「ー」を長音に使う子がいることがあります。

MIMでは、授業の中で特殊音節のルールを明確に伝えます。授業で使った掲示物を教室に掲示しておくことで、ルールがわからなくなって心配な時にはすぐに確認をすることができます。いつも同じ方法で教わることや確認することができるので、安心して学ぶことができます。

教室や廊下にMIMのクイズを掲示している学校があります。こういう取り組みも日常的に学んだことを楽しく確認できる方法の一つだと感じました。



## 3学期は3rdステージ指導です 校内体制の計画を

クラスレポートでは、まだ一見2ndステージや3rdステージのお子さんが多いように見えるクラスも、月ごとの標準点との比較をすると、もう少しで2ndステージや3rdステージになるようなお子さんが増えてきています。特に合計点では標準点があっても、片方のテストでステージが下がっているお子さんがいます。個別の配慮計画を見ると、以前はたくさん「■」マークがついていたクラスもだいぶ「■」マークが減って来ているのではないのでしょうか。これまでの2ndステージ指導では、クラス全体に対して指導を行う中で個別に支援を行い、特殊音節の理解や読みの力を高めて来ました。3学期に行う3rdステージ指導では、いよいよこれまでの2ndステージ指導ではなかなか力をつけてくる事ができなかったお子さんに対して、補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導で学習を計画して力をつけていく時期になります。「1年生でつまずく子どもたちを作らない！つまずいたまま2年生にはしない！！」という気持ちで、考えていただけるとありがたいです。そして、2学期のうちに片方のテ

ストが低いお子さんのステージが上がるようにしましょう。

2nd ステージ指導でも担任の先生お一人ではなく、できるだけTTでの支援をしました。3rd ステージ指導は補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導が必要になるので、校内での体制づくりをして全校で1年生を支えていただけるとありがたいです。例えば、給食の準備の時間に担任の先生がクラスの5人のお子さんと一緒に3rd ステージ指導を教室の隣の学年室で行うときに、教室では専科の先生が給食の準備を指導しているといった事ができると、指導場面の確保ができてありがたいです。

校内での体制づくりには、時間と担当する先生、場所の3つが必要となります。それぞれ例を挙げてみます。

時間：朝の時間、ドリルタイム、休み時間、給食の準備の時間、給食後の時間、さよならの後の時間など

担当する先生：担任の先生、支援員の先生、校長先生、教頭先生、専科の先生、特別支援学級の先生、通級指導教室の先生など

場所：教室の後ろなどの一角、近くの空き教室、校長室など

クラスの実態によっては、2nd ステージ指導と同じ形態で、学級全体での学習に担任以外の先生と一緒に関わることもあるかもしれません。各校それぞれにいろいろな条件があると思います。どのような形であればうまくできそうか、皆さんで相談して決めていただけるとよいと思います。

## 3rd ステージ指導 その子がわかる伝え方や教え方を

3rd ステージのお子さんたちのMIM-PMの「みんなのときかせて」の欄を見ると、多くのお子さんが、「問題は難しかった」「問題は楽しくなかった」「この前と比べて得意にならなかった」という方に丸をしています。これは、そのお子さんの「もっとできるようになりたいよ!」という声だと思えます。そういったお子さんたちだからこそ、補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導を行うことによって、先生と一緒にやったら分かった!できた!となるようにしたいですね。そして、1st、2ndのお子さんたちが羨ましくなるような楽しい3rd ステージ指導にしたいですね。指導方法の基本は1st、2nd ステージ指導と同じです。具体的な方法については、一人で悩まないで巡回相談支援担当者にご相談ください。

## 印刷の鮮明さ 黒板の綺麗さ 教室のUDの視点から

MIM-PMの採点をしていると、時々印刷が不鮮明なプリントがあります。子どもたちは、「(濁点)」があるかないか見ているのに、濁点なのか印刷の汚れなのか分からないと、限られた1分間の中でできる数は大幅に減ってしまいます。同じように普段のプリントでも、印刷の鮮明さということは、学習を進める上でとても大事なことだと感じました。また、印刷の向きも、表と裏で上下が違っていると、ストレスがあるようです。MIM-PMの時に裏表の向きが違っていると、子どもたちはびっくりしています。これだけのことでも数秒無駄にしてしまいますね。大人にとっては「そんなことくらい」だと思うのですが、子どもたちにとっては大きなことだと感じています。

MIM-PMや授業で教室にうかがうと、いつも黒板がぴかぴかのクラスがあります。お聞きしたら、当番の子がいつもきれいにしてくれているとの事でした。プリントと同じように、黒板もチョークの粉が残っていないきれいな黒板の方が字や提示した絵がよく見えて、学習しやすい環境といえるのではないかと思います。ちょっとしたことですが大切にしたいなと感じました。